

東京地方裁判所で私の請求を棄却する
判決が出ました。私の訴えを全く受け入れない
判断であり本当にやりきれない思いでいつばいです
14歳の時に優生手術により子供を作ることか
できない身体にされてから私の人生は本当につらく
苦しいものでした。国がした手術とは知らなかったの
です。すると父親を恨み続け最愛の妻にも真実を告げる
ことができず子供かてきない理由か分からないことで
辛い思いをさせてしまいました。私は国の手術に
よって60年以上苦しみ続けてきました。
私はこの裁判で優生手術によって奪われた私の
人生を返してほしいと訴えました。もちろん手術を
なかったことにすることはできません。でも国が事実と
いつかり向き合つて責任を取つてくれることで
私も少しは自分の人生を受け入れることができ
るように思えたのです。しかし私の願いは全く届きませ
ん。でした。裁判を起してから2年間長い闘いを続けて
きました。そして判決を迎えるまで七くたつた妻の前で
いい報告か出来ること楽しみにしてきました。
とても残念です。賠償請求を認めないのなら私の
身体を元に戻して欲しいです。そして妻との幸せな
人生を返して欲しいです。
優生保護法は間違つた法律だと思います。
人の体を勝手に子供をむつことか出来ない
体に作り変えることか許されて良いはずか
ありません。そんな判決には全く納得か出来ません。
私は自分だけでなく全国の被害者の皆さんに
声を上げていただきたいという強い思いを
もつてこの裁判を戦ってきました。この裁判をきっかけに
して優生手術により傷つけられた人々優生手術に

関わった人々が次々と名乗出てくださり
当時の実態が明らかとなり傷を少しでも埋める
対応がとれることを心から願っていました
この思いは今回の判決によっても揺らぐこと
はありません 被害者の代表として私がこの不当な
判決に泣き寝入りすることはできません
死んでも死にきれません このまま心の傷を墓場まで
もつていきたくありません 私は正義と公平に満ちた
裁判がなされ国に謝ってもらまでこの裁判を続けます
高等裁判所でも私の思いは決してかわりはありません
私のような被害者の思いを当たり前のこととして理解
してくれることを心から望みます